



News Letter 2011 No.3

日本観光ホスピタリティ教育学会学会報

通巻 第29号 発行 2012年2月16日

◇学会事務局：杏林大学外国語学部 古本泰之、野口洋平

〒192-8508 東京都八王子市宮下町476 Tel 042-691-0011(代表) Fax 042-691-8617(共用) email: jimujsthe.org

◇編集・発行人：川村学園女子大学 丹治朋子 ◇学会 URL: http://jsthe.org

【日本観光ホスピタリティ教育学会 第11回全国大会のご案内（最終）】

かねてよりお伝えしておりますとおり、日本観光ホスピタリティ教育学会では、「東日本大震災と観光ホスピタリティ教育」をテーマに、2012年3月3日（土）、4日（日）の2日間にわたって、立教大学新座キャンパスにおいて第11回全国大会を開催いたします。大会プログラムは以下のとおりです。

東日本大震災からの復興にあたり、学生が現地にてボランティア活動を行ったり、風評被害にあえぐ地域を支援したり、現地の観光イベントを支援したりと教育の現場では様々な活動が行われております。シンポジウムでは、このようなボランティア・ツーリズムの実践事例を報告し、観光ホスピタリティ教育の視点から分析を試みます。

1月にお届けした「全国大会申込書」（はがき）のご返送がお済みでない方は、ぜひお手続きをお願いいたします。会員外の皆様もぜひお誘い合わせの上、ご参加をお願いいたします。

大会テーマ「東日本大震災と観光ホスピタリティ教育」

1. 開催日：2012年3月3日（土）、4日（日）
2. 会場：立教大学 新座キャンパス 〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26 <http://www.rikkyo.ac.jp/>
3. 日程

<1日目：3月3日（土）>

- 11:00～12:30 理事会（N231教室）
- 12:30～ 受付（1号館1階情報ラウンジ）
- 13:00～ 開会式（N321教室）
- 13:05～14:05 基調講演（N321教室）
「東日本大震災からの復興と観光人材育成」
最明仁氏（JR 東日本総合企画本部観光戦略室長）
- 14:15～16:00 シンポジウム（N321教室）
「東日本大震災と観光ホスピタリティ教育」
パネリスト 岡本 伸之氏（帝京大学教授）
鈴木 勝氏（桜美林大学教授）
尻無浜博之氏（松本大学准教授）
- 司会 野口洋平氏（杏林大学准教授）

- 16:10～16:30 学生報告（N321教室）
「被災地支援活動に参加して」矢嶋隆弥氏
（大阪国際大学国際コミュニケーション学部3年）

16:45～ 研究発表・教育実践報告（N321教室）

【研究・教育実践論文】

1. 「学びを目的とする観光プログラムの商品化とその教育的枠組み」 宍戸学（横浜商科大学）
2. 「自分らしい働き方の実現に向けて —エアライン

スタッフの調査・分析から—」町田藍和（中村学園大学大学院流通科学研究科）・浅岡柚美（中村学園大学）

【教育実践報告】

1. 「短大における「総合講義ホスピタリティ」の導入について」森越京子（北星学園大学短期大学部）・吉田かよ子（北星学園大学短期大学部）
- 18:30～ 懇親会（食堂2階）

<2日目：3月4日（日）>

- 9:20～ 受付（1号館1階情報ラウンジ）
- 9:30～10:30 ワークショップ話題提供（N321教室）
「フィールドワーク（学外活動）と危機管理」
先本将人氏（ジェイアイ傷害火災保険）
- 10:40～12:10 ワークショップ（N235～236教室）
「フィールドワーク（学外活動）と危機管理」
- 12:10～13:10 休憩
- 13:10～14:00 ワークショップ報告（N321教室）
- 14:05～14:10 閉会式（N321教室）

*諸般の事情により、内容及び時間に一部変更がございます。また今後も変更する場合がありますことをご了承願います。

*なお、3月3日(土)は、日本学生観光連盟(学観連)の総会・企画が同時開催されます。研究発表・

教育実践報告終了後、懇親会開始前にN312教室にて学観連の発表がありますので是非ご参加ください。

*両日ともN323教室にて観光ホスピタリティ教育のパンフレット展示を予定しております。

[立教大学 新座キャンパスマップ <http://www.rikkyo.ac.jp/access/niiza/campus.html>]

4. 全国大会申込書(はがき)投函のお願い

「全国大会申込書(はがき)」の締め切りは、2月17日(金)です。また、会員外の皆様の大会参加も随時受け付けております。ぜひ、お知り合いへお声がけ頂き、参加希望がありましたら、大会実行委員会事務局までご連絡をお願いします。

5. 大会参加に関する費用

- <大会参加費> 正会員、準会員、非会員ともすべて2,000円
- <懇親会費> 正会員・会員外：4,000円 準会員：3,000円
- <弁当代> 4日(日)昼食分 1,000円(事前申し込みが必要です)
- <研究発表・教育実践報告費> 1件あたり5,000円

いずれも事前にお申し込みの上、大会当日に受付でお支払い下さい。会員外で参加を希望される方がいらっしゃいましたら、大会実行委員会事務局にご一報ください。参加フォームを送信いたします。なお、前日正午以降のキャンセルについては、キャンセル料を後日請求させていただくことがありますことをご了承ください。ただし、研究発表・教育実践報告に関して、研究発表論文集の印刷後はキャンセルできません。

また、基調講演に限り、無料にて会員外の皆様に公開いたします。参加を希望される方は、①氏名、②御所属、③連絡先(電話/e-mail等)を明記の上、基調講演のみ参加と記し、メールまたはFAXにて大会実行委員会事務局(下記7参照)へ、2月27日(月)までにお申し込みください。

6. パンフレット展示について

第10回記念全国大会でご好評頂きました、観光教育機関(大学、短期大学等)のパンフレット展示を今大会でも実施いたします。学会事務局より各校宛に依頼文書を送付しております。どうかご協力をお願いいたします。なお、展示に際し、手数料等は徴収いたしません。送付料金のみ各校にてご負担ください。ご不明の点は大会事務局までお問い合わせください。

7. 大会実行委員会事務局 連絡先

川村学園女子大学 観光文化学科丹治研究室気付 日本観光ホスピタリティ教育学会 丹治朋子宛
〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸 1133 電話：04-7183-6421(研究室直通、FAX兼用)
e-mail : taikai@jsthe.org

なお、研究室は不在がちなため、電子メールでのお問い合わせが確実です。お電話の場合は留守番電話にご用件と連絡先をお願いします。3月1日（木）以降の連絡は、電子メールのみの受け付けとなります。

【理事会報告】

<2011年度 第4回定例理事会>

- (1) 日 時 2012年2月4日（土）13:10~14:55
- (2) 場 所 立命館大学東京キャンパス会議室
- (3) 参加者 清水会長、鈴木副会長、村上副会長、豊川監事、小畑理事、中村理事、益山理事、安島理事、丹治理事、久保幹事、野口幹事、古本幹事 以上12名（委任状4通）

(4) 議題

1) 入退会審査

入会者、退会者は次の通りです。（敬称略、うち8名は、1月中に持ち回り審議済み）

<入会>

正会員：高井 典子（文教大学）、飯田 一郎（西南女学院大学）、内田 彩（立教大学大学院）、井手 拓郎（杏林大学）、柳田 義男（杏林大学）、森越 京子（北星学園短期大学）、吉田 かよ子（北星学園短期大学）、難波 繁之（北海道函館商業高等学校）、山下 博徳（島根県庁）

準会員：田中 祥司（早稲田大学大学院）

<退会> 安達 清治（大阪観光大学、正会員）

承認後の会員数は、158名（うち準会員13名、名誉会員2名）、特別会員1団体。

2) 第11回全国大会について

- ・第11回全国大会企画案と予算案について報告があり、審議の上、了承されました。

3) 2012年度総会について

- ・平成24年度の総会を、6月16日（土）に実施することを前提に調整することが決まりました。

4) 編集委員会報告

- ・機関誌第6号編集の進捗状況の報告がありました。
- ・CiNiiに機関誌第5号のコンテンツが掲載されたことが報告されました。

5) 広報委員会報告

- ・会報（2011年度第3号）の発行準備について報告されました。

6) その他

- ・事務局業務の一部外部委託について見積書をもとに審議され、6月の総会にて会員の承認を得た上で実施する方向が確認されました。

以上

▽ 次回は、2012年3月3日（土）11時から立教大学新座キャンパス2号館N231教室にて開催予定です。

【研究会報告】

2012年2月4日、立命館大学東京キャンパス会議室にて、今年度第2回研究会が実施され、15名の参加がありました。

「東日本大震災後の観光ホスピタリティ教育を考える」というテーマのもと、村上和夫氏（立教大学）より報告がありました。冒頭で、①観光教育の目標の再確認、②大学における学びの目標の再確認、③学生生活の安定、保証人への説明、学習環境の再構築、④復興支援に果たす観光の意義を社会へ発信、⑤研究機会の確保と学会との連携（post disasters tourism）の5つの課題が提示され、発災直後の救助、復旧、復興というそれぞれの段階でどのような取り組みが求められるかが整理されました。

特に、立教大学が実施した①～③の内容について詳しく示され、例えば、学生に対する学びの機会の提供（講演会や演習での討論、社会連携活動への応用、インターンシップの内容の変更）について事例の報告がありました。インターンシップでは、「震災を受けて、企業として今後どのようなチャレンジをするのか？」について学ばせてほしいというリクエストを出したことにより、学生が震災後の観光産業の競争力を理解する機会を得たと分析しています。その報告会にはインターンシップを受け入れていないいわゆる観光業以外の企業（運輸業や食品産業等）にも参加してもらい、これらの企業が今後のインターンシップの受け入れを約束してくれたなどの予想以上の効果がありました。

研究会参加者との意見交換では、「震災の影響を理由にインターンシップの受け入れを断られた」、「ボランティア活動の単位化に関する制度作りが難しい」、「ボランティア活動に参加する学生の欠課の扱いや引率する教員の休講に対する措置に苦慮した」などの悩みが挙げられました。

今後は、震災後の研究テーマの発見と研究機会の確保、「観光は社会の復興に必要な」という観光の意義を社会に対していかにして発信するか、そして、これらを接合して新コースワークを形成することが求められるのではないかと問題提起がなされました。

【観光学・観光教育に関する動向】

（1）学生による英語ボランティアガイドツアー（桜美林大学 国際ツーリズム研究会 石原芽依）

2012年1月、13名のオーストラリア人教育研修団が、NSW Department of Education and Communities Teachers' Tour として来日し、13日から16日の間東京に滞在しました。15日に Independent study として、私たち国際ツーリズム研究会のメンバー8名が東京都内を英語ボランティアガイドとして案内しました。研修団の皆さんは、日本の若者の嗜好や Pop Culture を味わい、私たち日本人学生とのコミュニケーションを楽しむことを目的としていました。事前に私たちでいくつかのツアープランを英文で作成し、その中から皆さんにコースを選んでいただき、それぞれのコースに分かれて都内を案内することにしました。私たちはツアープラン完成後、自分たちで都内を下見して、駅構内やトイレの場所まで細かくチェックしました。そして、それぞれの場所の魅力を英語で伝えられるようにガイド文を作成し事前学習を行いました。

最も苦労したのは、ツアー時間として与えられた6時間の中で、日本の文化を楽しんでもらうために内容をいかに充実させるかを考えるとともに、ツアースケジュールやガイド文を全て英語で作成しなければならないことでした。観光を学ぶ学生が行うボランティアガイドということで、プロのガイドに負けないツアーにし、皆さんに日本の魅力を十分に知っていただくことが、私たちの一番の目標でした。そのために、タイムテーブル

ルだけではなく、ツアータイトルや、ツアーの魅力、費用などを盛り込んだプランを作成し、提示しました。また、教育研修団の皆さんの希望をできるだけ考慮し、急なリクエストや緊急事態にも対処できるように事前学習に力を入れました。

最終的に教育研修団の皆さんにはそれぞれ下記の3つのコースの中から1つを選んでいただき、私たち8名も3つのグループに分かれて、話し合いやコースの下見を行いました。

- ① Pop culture コース：秋葉原電気街、ゲームセンター、表参道、竹下通り、立教大学
- ② Edo culture コース：両国駅周辺にて相撲の練習見学、江戸東京博物館
- ③ Tokyo urban life コース：アメ横、日暮里、谷中銀座商店街、新宿・東急ハンズ・紀伊国屋

しかし、ちょうど相撲の初場所が開催されている時期で、当日はほとんどの方から相撲を見たいというリクエストが出たため、急遽仲介役としてお世話になった日本人担当者の方にチケットをとっていただき、①・②のコースは予定を大幅に変更して一緒に秋葉原を巡った後、16時から両国国技館で相撲の試合を見ることになりました。③のコースも1名を除いて谷中銀座を巡った後、両国国技館で合流し相撲の試合を楽しみました。

先方は全く日本語が話せないと聞いていたため、英語でコミュニケーションがとれるか不安でいっぱいでしたが、当日は皆さんの明るさに助けられ、会話を楽しむことができました。また、本番は予定通り行くとは限らないこと、緊急事態にスムーズに対応できることがいかに大切かということ学びました。そして、おもてなしをする立場である以上、どんなリクエストであっても、できるだけ先方の希望を尊重することが大切だと感じました。実際に私たち日本人がみせたい“日本”と外国人がみたい“日本”は少し違いがあることもわかり、新しい日本の魅力を知ることもできました。普段私たち日本人が当たり前のように見ているもの、食べて



いるもの一つ一つが外国人にとっては新鮮であり、驚きであり、そういった日本の素晴らしい文化を伝えること、味わっていただくことの喜びや楽しさを感じることができました。この経験を通して、日本には海外の有名観光地に負けたくない魅力があることを知ることができ、もっと上手に日本を海外へ売り出していきたいと強く思うようになりました。このような機会を与えていただいたことに心から感謝するとともに、これからも英語の勉強に力を入れ、また機会があればぜひ参加させていただきたいと思います。(プロジェクトリーダー・桜美林大学ビジネスマネジメント学群2年次)

会報では、会員の皆様から提供された観光ホスピタリティ教育の情報及び書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍(定期刊行物を除く)を扱います。ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。ご協力をお願い申し上げます。
 (E-Mail : tantomo@gmail.com、FAX 04-7183-6421 丹治朋子 (川村学園女子大学))